

どうなっている
中学校給食

親子方式なら安く・早くできるのに



4年たっても実施まだ見えず

前回の市長選挙(2017年)では、3人の候補者がそろって中学校給食を公約にかけ、選挙の一大争点に。しかし4年経っても実施の目途はたたず、市民から不満の声が上がっています。なぜ、遅れているのか、実施の動きはどうなっているのか・・・。

17年1月 中学校給食請願 全会一致で採択

市長選挙直後の2017年1月に開催された市議会定例会に、市民から中学校給食の実施を求める請願が出されました。

請願は、19日に開催された文教福祉常任委員会でも、26日の本会議最終日でも、全会一致で採択されました。

市民の強い要望と議会での全会一致の賛成の動きを受け、24日に開催された市教育委員会で、中学校給食を実施することを決めました。

パブリックコメントではー

自校・親子方式98%
センター方式「賛成」2%

ところが市教委は、1年半経った17年7月、やっと中学校給食検討委員会を設置。ようやく議論が開始されましたが、検討委員会が、19年8月23日に市教委に提出した報告書は、中学校給食をセンター方式で実施するとしたものでした。

市教委は、同年10月15日の教育

委員会議で「中学校基本構想案」を示し、「1日6000食、敷地面積57000㎡」の給食センターを設置するとし、実施時期は明確にしています。

基本構想案に対するパブリックコメントでは、自校方式や親子方式で実施を求める意見が131件、センター方式での実施を求める意見は3件だけで、98%が自校または親子方式で実施するべきと答えています。それなのに市教委は、基本構想案の見直しをせず、センター方式に固執しています。

過大な試算で

「センター方式」を誘導

さらに、市教委が検討委員会に提出した資料は、①センター方式33億円、②親子方式92億円、③自校方式51億円とし、センター方式がいちばん安いとしています。しかし、センター方式の試算には、用地の取得費が含まれていません。

親子方式の92億円は、建設費71億円(10校分)、その他費用が21億円です。

建設費71億円は、小学校の敷地

内に、小学校用の給食室(約3億円)と中学校用の給食室(約4億円)の2つを新しく建設するとして、1校あたり7.1億円で概算経費を出しています。

八幡市では、3小学校の給食室を改修し、4中学校へ配送する親子方式を、総額約6.3億円で実施。八幡市の小学校(1400食調理)では、441㎡の給食室改修が工費約1.3億円。小倉小学校の給食室(780食調理)約450㎡の建替の工費は約3億円でした。センター方式に固執する市教委の試算は、過大で恣意的です。

今後、用地取得、建設、運営事業者の選定、中学校給食の指導指針等、実施までさらに時間がかかります。4年が経過し、府内で実施の目途が経っていないのは、亀岡市と宇治市だけです。

親子方式なら、もっと安く早くできます。

